

夜の陶板名画の庭で「古典」と「現代」が出逢い、輝く…。

京都北山

光の庭

GARDEN OF LIGHTING ARTS

“2020年への道” 京都・北山 温故創新プロジェクト

2016 11/26(土) ~ 12/25(日)

17:00~20:00

※12月12日(月)から14日(水)は展示替えのため休覧

前期 11/26(土) ~ 12/11(日)



高橋 匡太 (アーティスト)
「光の庭 SCENE of GENJI」

日本の代表古典「源氏物語」をリスペクト。
京都ならではの現代の色と光と影で綴り「光の庭」として幻想的に展覧。

後期 12/15(木) ~ 12/25(日)



ヤマガミユキヒロ (アーティスト)
「noh play (hikari no niwa)」

世界無形文化遺産である「能」をモチーフに、
キャンバス・プロジェクション作品により園内に
新たな能の時間・空間を紡ぐ。



みずのき美術館 × 浦崎力
「水辺のみずのき動物園」

障害者支援施設「みずのき」で、1964年より
続く絵画教室で生まれた作品の中から動物を
描いた作品を選び、それらのイメージを用いて制
作したアニメーションで動物園をつくり出します。

入場
無料

京都府立 陶板名画の庭

GARDEN OF FINE ARTS KYOTO

ヤマハ
「おもてなしガイド」システム
(多言語によるガイド)



スマートフォンに音声を読みとり、案内解説を文字情報として表示します。

OMOTENASHI GUIDE



京都北山 光の庭

GARDEN OF LIGHTING ARTS
“2020年への道”京都・北山 温故創新プロジェクト

京都の「伝統」と「現代」がハーモナイズアップして生まれる
「温故創新」の気風。

日本文化の水源でもある「古典」をリスペクトし、気鋭の
アーティストによるクラシカルにしてクールな「神宿る・
神遊び」の光の世界を、「陶板名画の庭」(設計:安藤忠雄)を
舞台上に展開します!

2016

11/26(土) ~ 12/25(日)
17:00 ~ 20:00

※12月12日(月)から14日(水)は展示替えのため休覧

前期 11/26(土) ~ 12/11(日)



高橋 匡太(アーティスト)
「光の庭 SCENE of GENJI」

PROFILE <http://www.kyoto.jp>

1970年京都生まれ。1995年京都市芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。
光や映像によるパブリックプロジェクト、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く国内外で活動を行っている。
東京駅100周年記念ライトアップ、京都・二条城、十和田市現代美術館、など大規模な建築物のライティング
プロジェクトは、ダイナミックで造形的な映像と光の作品を創り出す。
多くの人とともに作る「夢のたねプロジェクト」、「ひかりの美」、「ひかりの花畑」、「Glow with City Project」など大規模
な参加型アートプロジェクトも数多く手がけている。
1995年キリンコンテンポラリーアワード'95最優秀作品賞、2005年京都府美術工芸新鋭選抜展2005最優秀賞、五島
記念文化賞美術新人賞、グッドデザインアワード2005(環境デザイン部門)、2008年京都府文化賞奨励賞、2010年
京都市芸術新人賞、DSA日本空間デザイン賞2015優秀賞、などを受賞。
●監修/山本淳子(京都学園大学教授) ●協力/老香舗 松栄堂

後期 12/15(木) ~ 12/25(日)



ヤマガミユキヒロ(アーティスト)
「noh play
(hikari no niwa)」

PROFILE <http://www.yamagamiyukihiro.net>

1976年大阪生まれ。2000年京都精華大学美術学部卒業
日常で見慣れた風景を鉛筆や墨などで描画した絵画に、同一視点から撮影した映像をプロジェクターによって投影する
「キャンバス・プロジェクション」という独自の手法により作品を制作。絵画の上に「うつろい」という時間を取り入れる
この表現展開により、これまで数々の展覧会に参加するほか、2014年からは能楽とのコラボレーションによる
「Noh Play」というプロジェクトに取り組み、2016年には舞台公演「noh play 2016 | Traditional Trial~能、狂言
プラス~」の舞台芸術を担当するなど、幅広い活動を見せている。
近年の主な展覧・舞台芸術としては、「ロケーションハンティング」(あまらぶアートラヴ・兵庫2016)、「土木展」
(21_21 DESIGN SIGHT・東京2016)、「noh play 2016 Traditional Trial~能、狂言プラス~」(札幌市教育
文化会館)、「テンプス・フォーギット・大山崎山荘とヤマガミユキヒロの視点」(アサヒビール大山崎山荘美術館・京都
2015)、六甲ミーツ・アート芸術散歩(六甲山・兵庫2013)など多数。
ビクトリア国立美術館(オーストラリア)のパブリックコレクションにも。
2000年Mio写真奨励賞2000優秀賞、2008年岡本太郎現代芸術賞展特別賞、などを受賞。
●協力 / 林宗一郎、左瀧泰弘、曾和鼓堂、田茂井廣道、樹下千慧



撮影 = 阿野太一

みずのき美術館 × 浦崎力
「水辺のみずのき動物園」

みずのき美術館 PRO FILE <http://www.mizunoki-museum.org>

障害者支援施設「みずのき」で、創立5年目の1964年に始まった「みずのき絵画教室」の作品約18,000点を所属
作品とし、2012年、京都府亀岡市に開館。「みずのき絵画教室」は、講師の日本画家・西垣籌一(1912-2000)の
丹念な指導により、重い知的障害のある人の中に眼る創造性を発見し、成長させ、日本のアール・ブリュットの草分け
的存在として注目を集めた。みずのき美術館では絵画教室で生まれた作品の保存・研究、アール・ブリュットの考察、
さらに地域社会に開かれたプロジェクト型の企画の3つを柱に、数多くの展覧会や企画を展開している。

浦崎力(映像作家) PRO FILE

1979年千葉県市川市生まれ。発表するあてのない漫画、音楽、アニメーションを制作したりしなかったりしていたが、
2011年末からアニメーションによるPVを細々と発表するようになる。
主な展示に「みずのき動物園」(2015、京都芸術センター[京都])がある。

原画:みずのき美術館所蔵作品 / 映像:浦崎力 / 音楽:あしくちびる / プロデューサー:中本真生(UNGLOBAL STUDIO KYOTO)

京都府立 陶板名画の庭

GARDEN OF FINE ARTS KYOTO

<http://kyoto-toban-hp.or.jp>

京都市左京区下鴨半木町(地下鉄「北山駅3番出口すぐ」)

主催:京都府
共催:北山街協同組合
協力:北山交流連携会議・みずのき美術館・ヤマハ(株)・リバーフューズ(同)
府民ホールアルティ・京都芸術センター(株)ハートス・Gallery PARC
(株)中川ケミカル(株)エス・シー・アライアンス

駐車場はございません。ご来場は市営地下鉄、市バスをご利用下さい

